

パターンB 解説・特徴（大企業本体の売却・資本の受入）

定義・特徴

- 主に大企業（対象会社）が成長戦略の一環で自社の株式（過半数超）の売却を行うパターンである
- グローバルネットワーク等を有する買い手企業との相乗効果のほか、企業の理念・戦略が見直され、新たな事業展開が行われる事例や、株式非公開化による意思決定の迅速化や上場維持コストの削減につながるなどの特徴がある

スキームイメージ

【売り手（対象会社）】

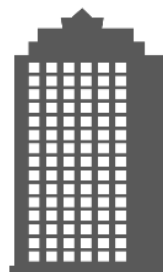
大企業等



過半数超の
株式の売却

【買い手】

外国事業会社・
海外PEファンド等



具体例

- 中外製薬×ロシュ
 - 中外製薬【売り手】の、ロシュ【買い手・事業会社】からの資本受け入れ
- パイオニア×ベアリング
 - パイオニア【売り手】へのベアリング・プライベート・エクイティ・アジア【買い手・ファンド】による出資及び非公開化

概況

- シナジー効果を期待したM&Aの実施と意思決定の難しさ
 - M&Aを通して、コストダウンや販売網、設備などが共有され、相乗効果を生むなど大きな効果が発揮されるケースも多い
 - 他方、親会社や支配的株主の不存在等の要因により、売り手企業にとっては、成長のための海外資本活用やグローバル企業と戦略的連携に係る意思決定の難しさがあることについても認識されている